

学ぼう明日へ!

サポート通信

問合せ 確かな学び推進会議

☎76・4233

3

小学生の家庭学習

学校での学習内容をよりスムーズに理解していくためには、学校と家庭との連携が不可欠です。家庭においては、子どもたちが主体的に毎日机に向かう習慣をつけさせていくことが大切です。しかし、机に向かうといっても、どのくらいの時間、どのような事を学習すればいいのか、はっきりしません。

そこで、今年度、確かな学び推進会議は「家庭学習の手引き」を作り、それをクリアファイルにして、子どもたち

家庭学習の手引き

【毎日、続けることが大切です!】

保護者の皆様へ

家庭学習の手引きは、お子様の学習習慣を身につけるための大切なツールです。家庭学習の習慣は、お子様の学力向上に大きく貢献します。毎日続けることで、お子様の学習習慣が身につきます。

【学年別】

小学校 1年生～4年生 10分×学年以上
5年生～6年生 15分×学年以上

中学校 1年生～3年生 20分×学年以上
4年生～3年生 以上

家庭学習のやくそく

①勉強があるときは、まずそれを先にする。
②家庭学習用のノートを用意する。(授業のノートとは別に作る。)
③多少遅れていても、必ずしも、毎日続ける。
④学習した内容は、おうちの人に話してもらう。

家庭学習で取り組んでほしいこと(例)

こんな 学習方法を してみよう	家庭での協力
お勉強の時間をはかってみよう。	できるだけ、お父さんやお母さんがいる場所で学習させよう。
お勉強の時間をはかってみよう。	テレビを消して、学習に集中できるようにしよう。
お勉強の時間をはかってみよう。	本を読ませたり、お勉強の時間をはかってみよう。
お勉強の時間をはかってみよう。	早寝、早起き、朝ごはんを食べて、健康的な生活習慣を身につけよう。

家庭学習の手引き

けいさん がんばりカード (まい日)

計算がんばりカード

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

計算がんばりカード

に配布しました。内容は、まず、学習時間について、小学生の場合「10分×学年以上」となっています。これは、1年生であれば10分以上、2年生であれば20分以上、6年生であれば60分以上が学習時間の目安であることを示しています。

次に、家庭学習の約束として「宿題があるときは、まずそれを先にする」「学習した内容は、おうちの人に見てもらおう」など4点を挙げています。さらに、家庭学習で取り組んでほしいこととして、低中、高学年での家庭学習の具

体例を挙げています。例えば、低学年では「教科書を声を出して読む」「好きな本を読む」を掲げています。

また、学校としても、子どもたちが家庭学習に取り組みやすいようにさまざまな試みを行っています。

例えば、昨年度の1年生では、計算がんばりカードを配布しました。1年生の算数では、簡単なたし算やひき算を学習しますが、計算が速く正確にできるようにするために、何回も繰り返し練習することが必要です。1年生の子どもたちは、表に式、裏に答

えが書いてある単語帳のような計算カードを持つています。これを繰り返し練習することで計算が速く正確にできるようになります。子どもたちが計算カードで練習をし、担任から印やコメントをもらうことで、家庭学習として取り組む意欲付けになればと思います。

また、時々タイムも計測し、できるだけ速く計算できるように意欲付けも図ってました。

このように学校では、家庭学習がスムーズに進むような取り組みを進めています。